

---

泉大津市  
団体ヒアリング調査  
【結果報告書】

---

令和5年4月

泉大津市

泉大津市社会福祉協議会

# 目次

<u>I アンケート調査の概要</u> .....	1
<u>1 調査の目的</u> .....	1
<u>2 調査概要</u> .....	1
<u>3 報告書の見方</u> .....	1
<u>II アンケート調査結果</u> .....	2
<u>1 団体・事業者について</u> .....	2
<u>2 活動内容について</u> .....	3
<u>3 活動を通じて見える地域の状況について</u> .....	8
<u>4 近年の福祉課題と自殺対策について</u> .....	11
<u>5 今後の活動について</u> .....	14

# I アンケート調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、計画策定の基礎資料とするために、市内の福祉関係団体や事業者を対象に、地域との関わりや福祉に関する意識などについて、ご意見をお聞きするものです。

## 2 調査概要

項目	内容
調査対象者	市内の福祉関係団体や事業者（12 団体）
調査期間	令和5年2月1日（水）～3月9日（木）
調査方法	郵送配布・郵送回収後、聞き取り実施
配布数	12 件
有効回収数	12 件
有効回収率	100.0%

## 3 報告書の見方

- ◇回答結果は、対象団体数を考慮して、「件数」表記としています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの件数を示しています。そのため、合計団体数を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

## Ⅱ アンケート調査結果

### Ⅰ 団体・事業者について

◆団体名称、会員数、活動年数、活動範囲[問1] <記述>

<順不同>

団体名称	会員数	活動年数
介護者家族の会	85	5
人権啓発推進協議会	130	50
泉大津市身体障がい者福祉会	69	
泉大津市母子福祉会	34	15
泉大津市民生委員・児童委員協議会	119	
泉大津市老人クラブ連合会	4600	65
社会福祉法人泉大津社会福祉協議会（いきいき相談支援センター）	301	46
泉大津市ボランティア連絡会	90	26
泉大津市実生保護女性会	220	69
泉大津市自治会連合会	18	60
泉大津市保護司会	30	70
地区福祉委員会	297	20

## 2 活動内容について

### ◆地域と一緒にいることや、地域に向けて行っていること[問2] <記述>

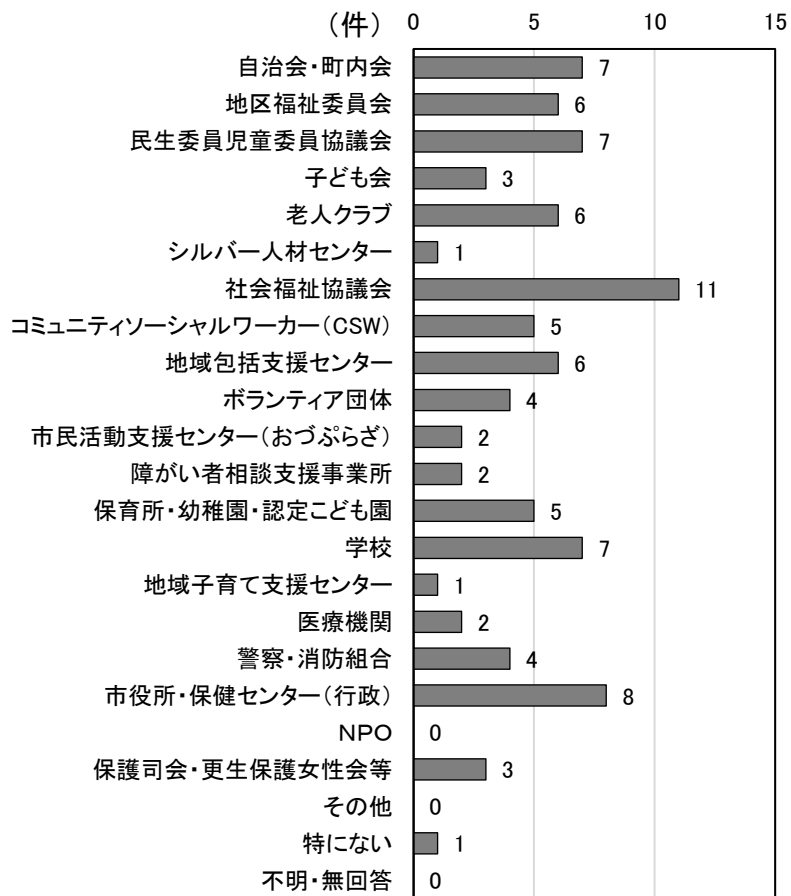
内容
○介護のする人、される人が自分で自分を守ることことを、地域の介護していない人も含めて呼びかけ
○小地域ネットワーク活動、すこやか訪問、見守り活動
○清掃作業、友愛訪問、スポーツ大会（グラウンド、ゴルフ大会）、旅行（日帰り、1泊旅行）、研修会、ウォーキング、ふれあい喫茶、その他活動
○コロナ禍にて、地域との関わりがほぼない
○地域いきいきサロン、介護者の会員援助・用品の作成
○子どもの見守り、あいさつ活動、地域との連携、協働推進活動、障がい者ふれあいフェスタへの参加協力
○社会を明るくするつどい
○自治会館や長寿園を利用したふれあい喫茶や健康体操、ラジオ体操

### <ヒアリングによる意見>

- ◆団体主導の取組はないが、他団体主催のイベントに協力している
- ◆コロナ禍による制限があるため、「例年通り」が途絶えてしまった
- ◆学校行事への協力もある

◆現在の他団体や機関等との交流や連携、協力関係[問3] <複数回答>

現在の他団体や機関等との交流や連携、協力関係については、「社会福祉協議会」が11件と最も多くなっています。次いで、「市役所・保健センター（行政）」が8件となっています。

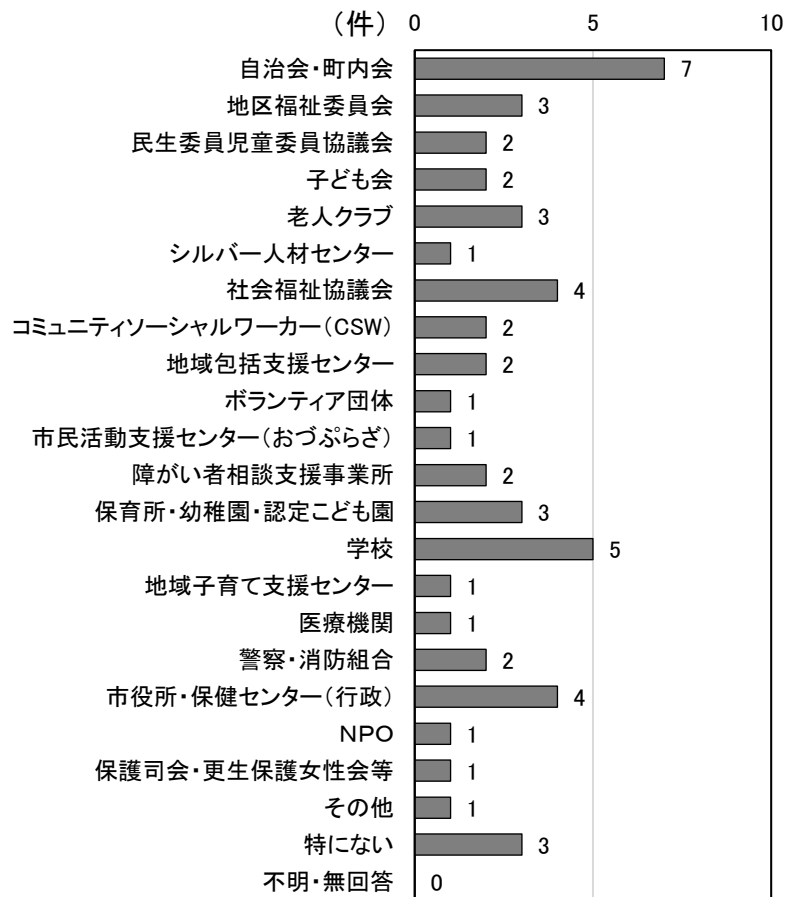


◆具体的な活動内容[問3] <記述> ※一部抜粋

内容
○会に役員としての関りがある
○医療機関 市民病院より無料講演・市役所高齢介護より無料体操、お口の体操 等
○子育て応援課の協力を得てひとり親の方々に会の活動内容の冊子等を配布し、入会を促す
○情報交換
○清掃作業、食事会、小地域ネットワーク活動、小中学校生の昔あそび学習、学校草刈り（清掃）健康のための学習会、防犯に関する警察による学習会、防犯学習会登下行事の見守り 等
○各団体より個別ケースの相談時に、同行して対象者をつなぐ
○福祉施設の行事を手伝い、高齢施設、デイサービス、グループホーム、地域のいきいきサロン、小・中学校学習指導、広報の音訳、介護用品、子育て支援センターでの読み聞かせ、ふれあい風街での学習 等
○ミニ集会（小学校々区8カ所）を開催
○各保育所、幼稚園、子ども園にてハンドベルの演奏を実施
○自治会活動のなかで民生委員、福祉委員、子供会の活動支援、老人クラブの活動
○社会を明るくするつどい
○地域での困り事をCSWにつなげる

◆今後、新しく連携したい、連携を強化したいと思う団体や機関等[問 4] <複数回答>

今後、新しく連携したい、連携を強化したいと思う団体や機関については、「自治会・町内会」が7件と最も多くなっています。次いで、「学校」が5件となっています。

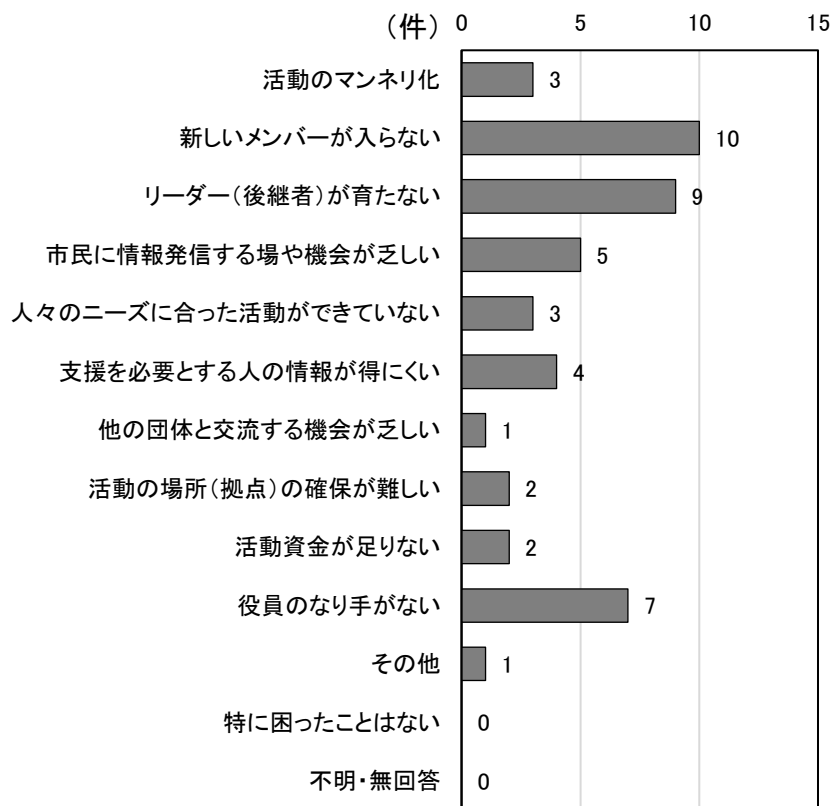


◆具体的な活動内容[問 4] <記述> ※一部抜粋

内容
<input type="checkbox"/> 地域との連携（町内会での、人と人とのつながりを大事にする）
<input type="checkbox"/> 参加できる事業には積極的に参加
<input type="checkbox"/> 社協、市役所と連携を図っていく
<input type="checkbox"/> 情報交換
<input type="checkbox"/> 現在交流の無い団体との交流、勉強会、支援 等
<input type="checkbox"/> 地域で困っている方の早期対応が図れる相談体制を強化
<input type="checkbox"/> 地域ともっと交流、連携したい
<input type="checkbox"/> 保護司の安定的確保のため連携
<input type="checkbox"/> 子どもを通じて若い世代の方々と交流をして、いずれ福祉に目を向けて関心を持ってもらえるような関係構築

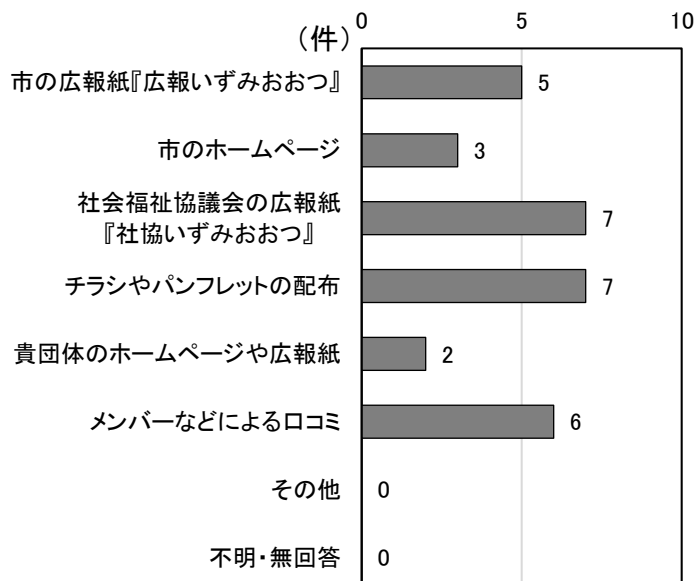
◆地域活動を行う上で困っていること [問 5] <複数回答>

地域活動を行う上で困っていることについては、「新しいメンバーが入らない」が10件と最も多くなっています。次いで、「リーダー（後継者）が育たない」が9件となっています。



◆地域活動情報をどのように発信しているか [問 6] <複数回答>

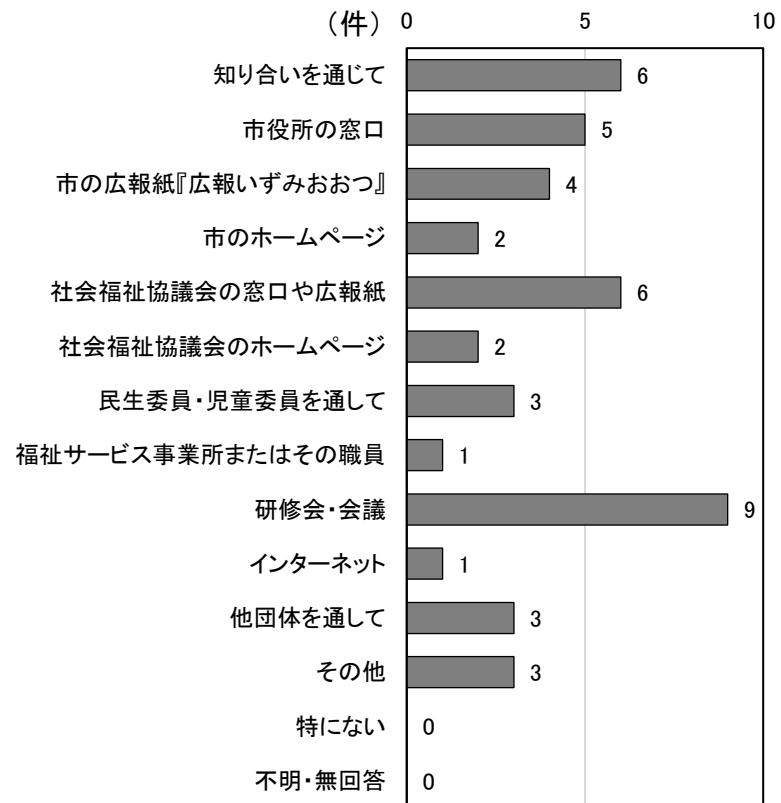
地域活動情報をどのように発信しているかについては、「市の広報誌『広報いづみおおつ』」と「チラシやパンフレットの配布」がともに7件で最も多くなっています。次いで、「メンバーなどによる口コミ」が6件となっています。





◆必要な情報をどこから入手しているか[問 7] <複数回答>

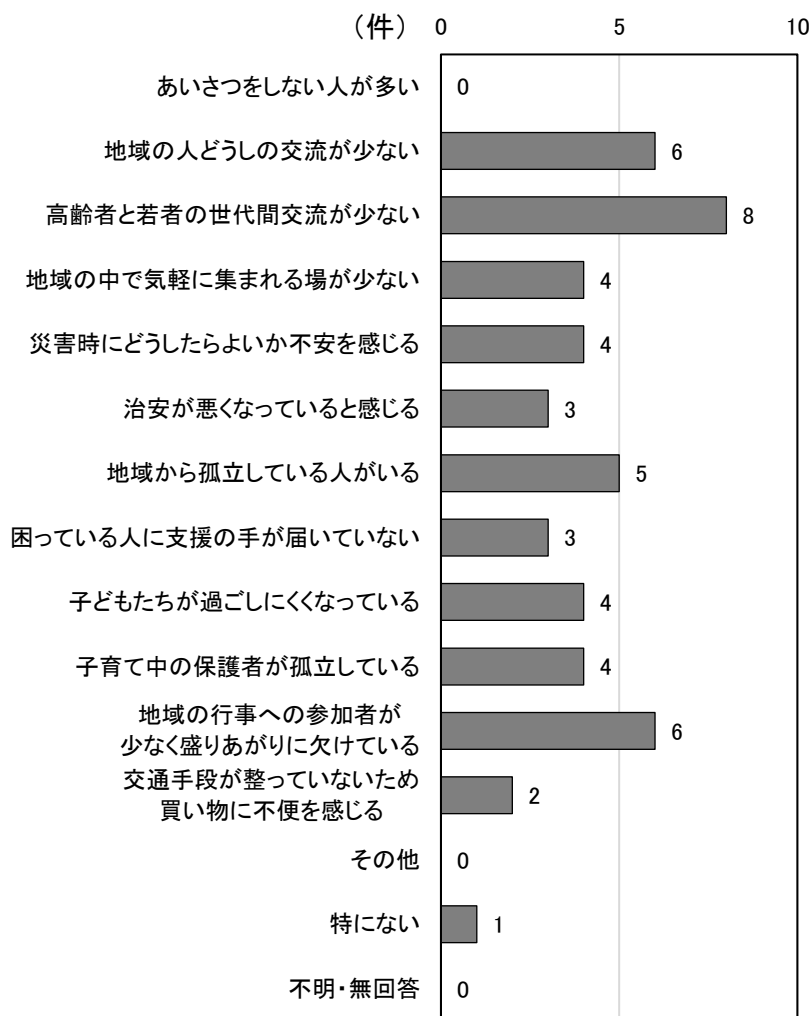
必要な情報をどこから入手しているかについては、「研修会・会議」がともに7件と最も多くなっています。次いで、「知り合いを通じて」と「社会福祉協議会の窓口や広報誌」がともに6件となっています。



### 3 活動を通じて見える地域の状況について

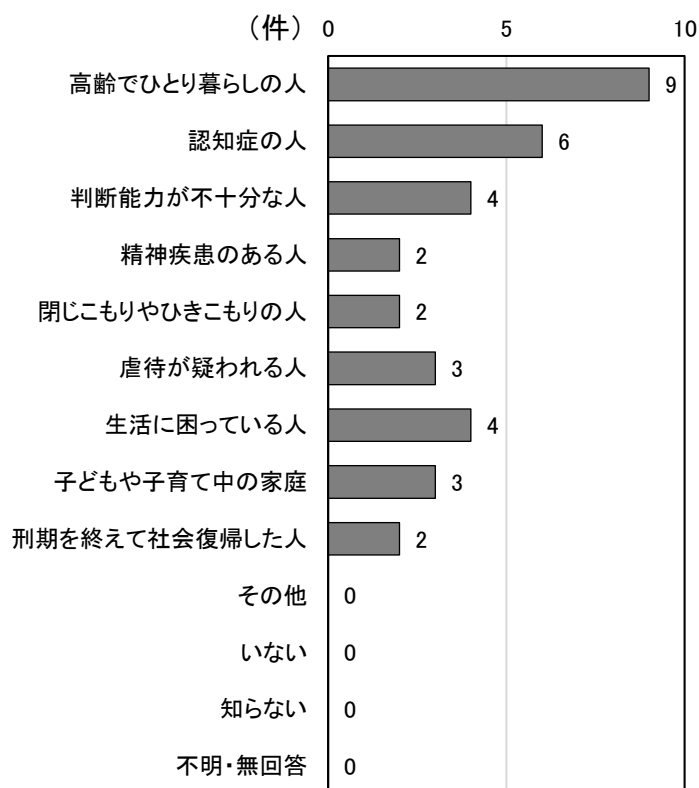
#### ◆活動を通じて、地域の中で課題に感じること[問8] <複数回答>

活動を通じて、地域の中で課題に感じることについては、「高齢者と若者の世代間交流が少ない」が8件と最も多くなっています。次いで、「地域の人どうしの交流が少ない」と「地域の行事への参加者が少なく盛りあがりに欠けている」がともに6件となっています。



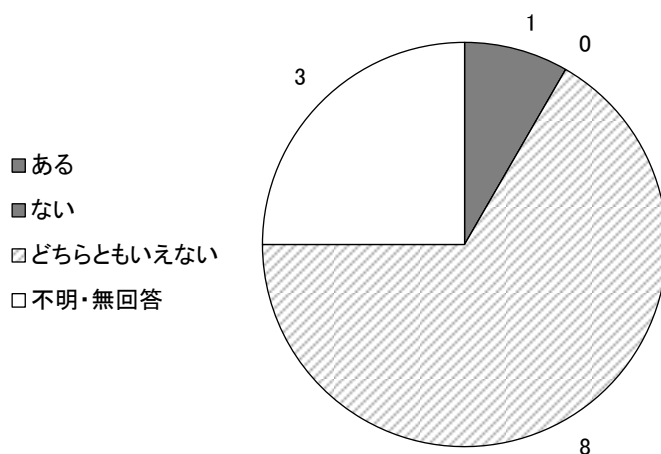
◆活動を通じて、見守り等支援が必要な人や、気にかかる人がいるか〔問9〕 〈複数回答〉

活動を通じて、見守り等支援が必要な人や、気にかかる人がいるかについては、「高齢でひとり暮らしの人」が9件と最も多くなっています。次いで、「認知症の人」が6件となっています。



◆既存の公的な福祉サービスでは解決できず困っている問題があるか〔問10〕〈単数回答〉

既存の公的な福祉サービスでは解決できず困っている問題については、「どちらでもない」が9件と最も多くなっています。次いで、「認知症の人」が6件となっています。

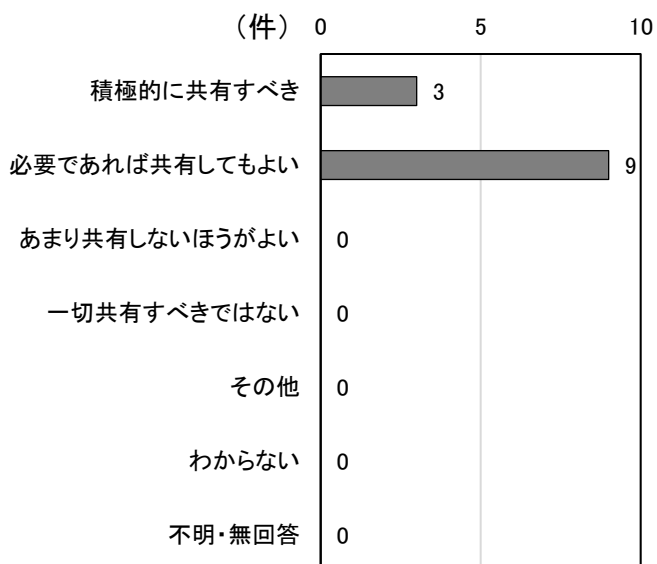


◆「ある」と回答した人の具体的な内容〔問10〕 〈記述〉

内容
○一切の協力を拒む方への対応
○個人の活動だけでは福祉サービスを必要としている人の情報が十分に収集出来ない

◆地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止等のために、支援者が、支援に必要な個人情報を共有することについて、どのように思うか[問 11] <単数回答>

地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止等のために、支援者が、支援に必要な個人情報を共有することについては、「必要であれば共有してもよい」が9件と最も多くなっています。次いで、「積極的に共有すべき」が3件となっています。



## 4 近年の福祉課題と自殺対策について

### ◆活動する中で、新型コロナウイルス感染症の流行によりあらたな課題が生じたか[問 12] <記述>

内容
○コロナ化、不要不急と命ぜられて、介護する人は、自分がうつると介護者本人に移さないか大変心配が大きいと思う
○買い物もままならない時期であった
○計画した事業が開催直前にコロナウイルス感染拡大により中止せざるを得ないことがよくある
○役員会議が思うように開催できなかった
○コロナ化により行事開催はできなかった
○家計を支えるひとり親家庭で本人、もしくは家族が観戦しその間収入がなく、経済的に大変だった会員がいる
○見守り活動に制約
○多数の集まる事の出来る無料の場所確保できない(会費の集めていない集いの場所等に)参加者が減った
○感染防止対策にて、関係団体等との関りが激変した
○活動範囲が限られた
○全ての事業会議が中止となった事で、役員会員のテンションが下がった
○流行前に行っていた団体活動が全て出来なくなり高齢で一人暮らしの方との交流が少なくなった
○保護観察対象者との面接の不十分さ
○コロナ禍の中では活動制限があり、なかなか思うような活動が出来なかった
○人が集まるということが出来なくて、外出する事も出来なくてフレイルと呼ばれる方が増加した
○筋肉の低下が目立った

◆活動する中で、新型コロナウイルス感染拡大収束後に期待すること[問 13] <記述>

内容
○会員全員が集まらない
○年間の行事ができない
○多くに人々が参集できる事業を開催し、人権を守る風土を広めたい
○今後も、ウイルス感染をはじめ気候変動による災害等何が起こるか予想のつかない危機の時代だと思う
○日常から有事に備えておくことが大切
○弱者が行き場をなくすことのないように伴走型支援を期待する
○諸々の支援や活動の早期再開
○開催事業を増やして行きたい。新事業にも（ニュースポーツ等）取り組んで行きたい
○交流により問題点の取り組み（新会員確保、役員のなり手等）
○感染拡大前と同じ状態（対面での機会）に戻ること
○各団体との交流、情報の共有
○今までの様な事業が出来るかどうか
○流行前の活動が出来ればいいと思う
○密な啓発活動や研修、対象者との十分なコミュニケーション
○コロナ前のような食事会など、高齢者の方々が笑顔で集える場所づくりをしたい

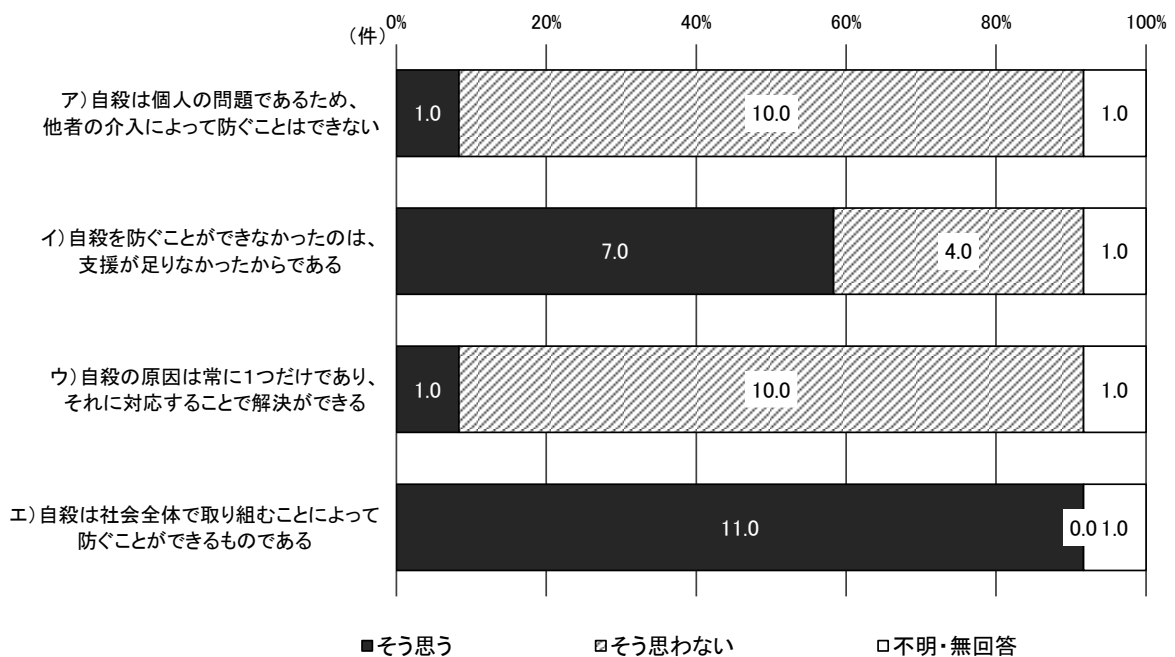
## ◆自殺に対する考え方について[問 14] <単数回答>

自殺に対する考え方について、「ア) 自殺は個人の問題であるため、他者の介入によって防ぐことはできない」では、「そう思わない」が10件と最も多くなっています。

「イ) 自殺を防ぐことができなかつたのは、支援が足りなかつたからである」では、「そう思う」が7件、「そう思わない」が4件となっています。

「ウ) 自殺の原因は常に1つだけであり、それに対応することで解決ができる」では、「そう思わない」が10件と最も多くなっています。

「エ) 自殺は社会全体で取り組むことによって防ぐことができるものである」では、「そう思う」が11件と最も多くなっています。



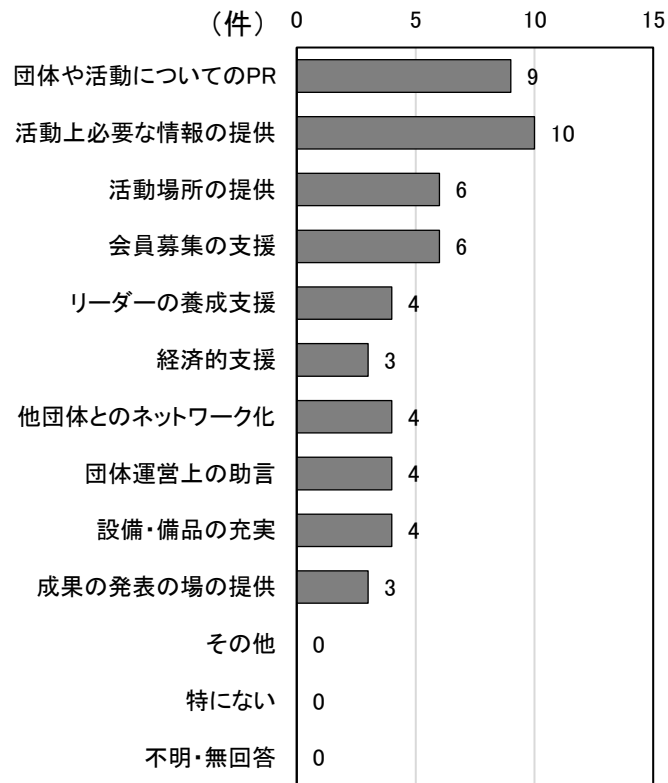
### <ヒアリングによる意見>

- ◆ 経済的な理由などで防げない部分もあると思うが、どのように発見できるかが重要
- ◆ よりどころとなるところがあればいいと思う
- ◆ 人によって状況がちがうため、支援できなかつたことが非となることはない
- ◆ 何回も足を運ぶことで、話を聞いてもらうことが大事

## 5 今後の活動について

### ◆活動をしていく上で市や社会福祉協議会に望むこと[問 15] <複数回答>

活動をしていく上で市や社会福祉協議会に望むことについては、「活動上必要な情報の提供」が10件と最も多くなっています。次いで、「団体や活動についてのPR」が9件となっています。



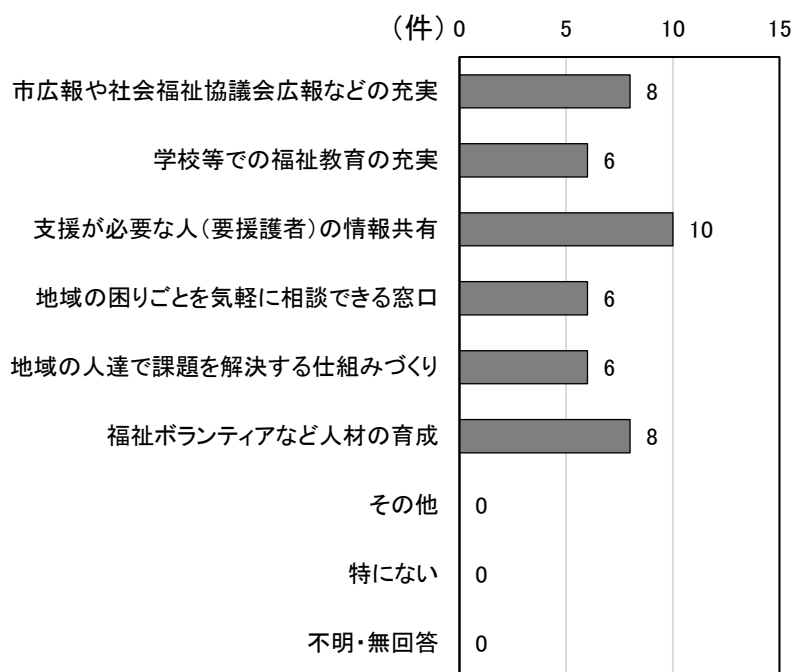
### ◆今後、市や社会福祉協議会との協働でどのようなことに取り組めると思うか[問 16] <記述>

内容
○いろいろな垣根を取っ払ってみんなで取り組める方法を考える
○人権侵害防止に関する行事や広報活動
○役員の高齢化による活動の困難さと母子会員の減少等、課題は山積している
○災害時に要支援者への体制の構築が必要
○連絡を密にして活動を活発にしていきたい
○地域で孤立している方に、必要な支援を円滑に行える仕組みづくり
○2か月に1回自治会の未来を考えるプロジェクト会議を行い、取り組める事業を検討している
○案内にこだわらず、屋外でのラジオ体操、健康体操が広まりつつある
○健康体操等を、降雨時や猛暑で実施できる環境づくりに協力してほしい



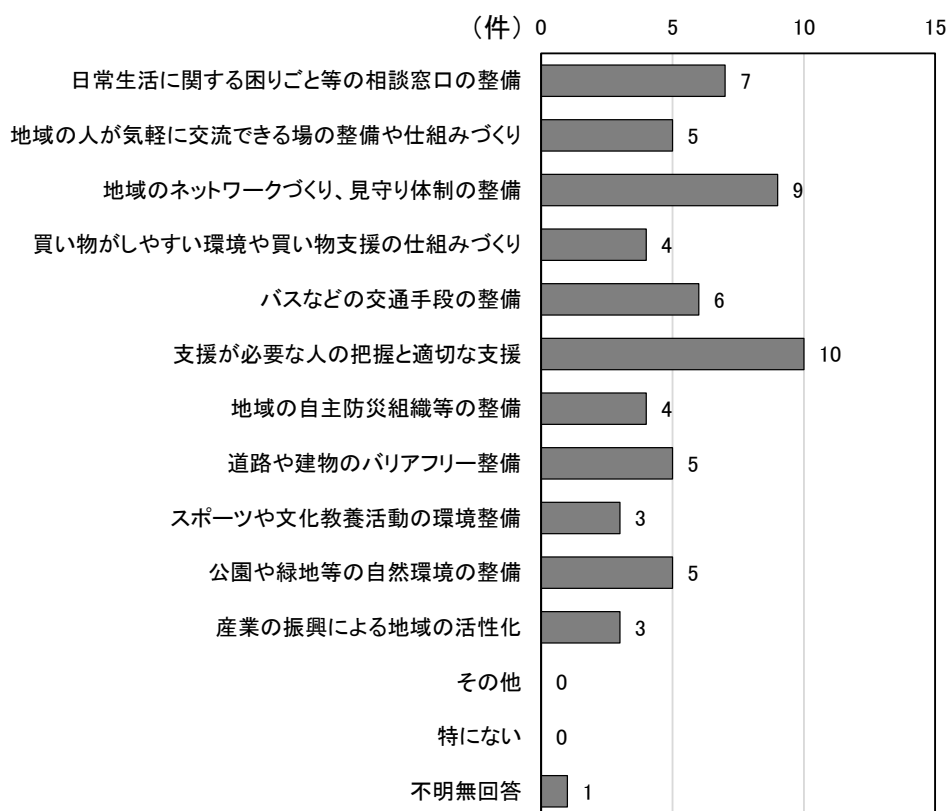
◆地域における助け合いを活発化するため、市や社会福祉協議会の取り組みとしてどのようなことが重要だと思うか[問17] <複数回答>

地域における助け合いを活発化するため、市や社会福祉協議会の取り組みとしてどのようなことが重要だと思うかについては、「支援が必要な人(要擁護者)」が10件と最も多くなっています。次いで、「市広報や社会福祉協議会広報などの充実」と「福祉ボランティアなど人材の育成」が8件となっています。



◆地域での暮らしをより豊かにするため、どのようなことが必要だと考えるか[問 18] <複数回答>

地域での暮らしをより豊かにするため、どのようなことが必要だと考えるかについては、「支援が必要な人の把握と適切な支援」が 10 件と最も多くなっています。次いで、「地域のネットワークづくり、見守り体制の整備」が 9 件となっています。



◆地域福祉の推進についてご意見・ご要望等[問 19] <記述> ※原文まま

内容
○高齢者には声かけ見守りが一番大切だと思います。福祉委員だけでは力不足で、自治会の協力のもとで見守り体制を築いていく。また、地域での困り事には、CSW の方の協力が必要です。地域の人達で課題を解決する仕組み作り、小地域ネットワーク活動推進会の推進。
○信号を出している方が分からない。この時期会自身が会の中で連絡を取り合う。1 番中身がよく解るのではないのでしょうか。
○生活に困っている人や、いじめや虐待等は表面に現れ難いので、このような情報の把握が重要と考えます。
○小地域ネットワークもいまだに立ち上がっていない地域があると思いますが、早急に全地域で活動できる様にして下さい。地域の事は地域の人が 1 番わかると思います。行政の手助け無しでは運営がスムーズにできないと思いますので、お互いで学習を進めて行きたい。
○後継者不足が 1 番の問題になってきていると思う。



泉大津市  
団体ヒアリング調査  
結果報告書

発行：泉大津市 保険福祉部 福祉政策課  
電話：0725-33-1131  
FAX：0725-20-3129

発行年月：令和5年4月